

# 略 歴 書

氏 名 南 部 陽 一 郎 (なんぶ よういちろう)

生年月日 大正 10年 1月 18日

## 学 歴

昭和 17年 9月 30日 東京帝国大学理学部物理学科卒業 (戦時繰上卒業)

昭和 27年 6月 理学博士取得 (東京大学)

## 職 歴

昭和 24年 4月 1日 大阪市立大学理学部 助教授

昭和 25年 4月 1日 大阪市立大学理学部 教授

昭和 27年 9月 1日 Institute for Advanced Study, Princeton, USA  
member

昭和 29年 10月 1日 University of Chicago, Research fellow

昭和 31年 10月 1日 University of Chicago, Associate Professor

昭和 33年 10月 1日 University of Chicago, Professor

昭和 46年 10月 1日 University of Chicago, Distinguished Professor  
(特別主任教授)

平成 3年 4月 1日 University of Chicago, Professor Emeritus  
エンリコ・フェルミ研究所 名誉教授

平成 5年 11月 11日から 大阪大学外国人客員研究員

平成 6年 1月 10日

平成 7年 6月 9日から 大阪大学外国人客員研究員 (大阪大学招へい教授)

平成 8年 1月 22日

平成 8年 12月 13日 大阪大学名誉博士

平成 9年 5月 12日から 大阪大学外国人客員研究員 (大阪大学招へい教授)

平成 9年 7月 31日

平成 15年 10月 20日から 大阪大学外国人客員研究員 (大阪大学招へい教授)

平成 15年 12月 17日

平成 18年 4月 1日 大阪大学招へい教授

平成 23年 4月 1日 大阪大学特別荣誉教授

(作成 : 2015年 7月 大阪大学)

# 南部陽一郎氏研究業績等概要

## 主要著書

「クォーク - 素粒子物理の最前線」講談社 1981

英訳「Quarks: Frontiers in Elementary Particle Physics」

World Scientific Publishing Company 1985

「素粒子論の発展」岩波書店 2009

## 主要学術論文

1. “Quasi-Particles and Gauge Invariance in the Theory of Superconductivity”  
Phys. Rev. 117 (1960) 648.
2. “Dynamical Model of Elementary Particles Based on an Analogy with  
Superconductivity. I”, with G. Jona-Lasinio, Phys. Rev. 122 (1961) 345.
3. “Three-Triplet Model with Double SU(3) Symmetry”,  
with M.Y. Han, Phys. Rev. 139 (1965) 1006.
4. “Duality and Hadrodynamics”,  
Notes for the Copenhagen High Energy Symposium, 1970.

他 140編

## 主な受賞歴

ハイネマン賞 1970

オッペンハイマー賞 1977

文化勲章 1978

アメリカ国家科学賞 1982

マックス・プランク・メダル 1985

ディラック・メダル 1986

サクライ賞 1994

ウルフ賞 1994

ボゴリューボフ賞 2003

フランクリン・メダル 2005

ノーベル物理学賞 2008

(作成：2015年7月 大阪大学)

# 南部陽一郎特別栄誉教授

(資料)

南部陽一郎氏は、昭和17年9月東京帝国大学理学部物理学科を戦時繰上卒業、兵役後、昭和24年4月大阪市立大学理学部助教授に就任、翌昭和25年4月同教授に昇任した。昭和27年9月アメリカ合衆国に渡りプリンストン高等研究所メンバーとなり、昭和29年シカゴ大学に移籍した。昭和33年にはシカゴ大学教授に昇任、昭和46年には同特別主任教授、平成3年にシカゴ大学名誉教授となった。大阪大学には平成5年以来、頻繁に外国人客員研究員として教育研究に従事、その功績により平成8年12月、第1号の大阪大学名誉博士を授与された。平成18年4月より大阪大学招へい教授として、理学部・理学研究科の学生、研究員、教員に対し教育研究を通して多大な影響を与え続けられた。平成20年にはノーベル物理学賞を受賞され、平成23年度より、大阪大学特別栄誉教授として、理学研究科における教育研究活動にとどまらず、全学的な講演啓蒙活動にも従事された。

南部陽一郎氏は、戦後の世界の物理学の発展を牽引し、我々の自然観を大きく変えた大物理学者である。独創的な発想と深い理解は、いつもその時の先端研究者の10年先を先取りするものであった。ノーベル物理学賞の対象になった素粒子の世界における自発的対称性の破れの発見と定式化のみならず、クォークのカラー自由度の発見、強い相互作用理論、ひも理論（弦理論）の構築など、素粒子物理学の基礎を築き、現在でもその研究は発展し続けている。また、南部陽一郎氏は、日本人をはじめ、多くの次世代のリーダーとなる物理学者を育てあげた。物理学における多大な功績により、ハイネマン賞、日本国文化勲章、アメリカ国家科学賞、ディラック・メダル、ウルフ賞、ノーベル物理学賞などを受賞された。

大阪大学理学研究科物理学専攻（H722号室）に研究室を構え、日頃より素粒子物理学をはじめとする理論物理学全般に渡る研究を展開された。研究室の学生やスタッフとも気さくに議論され、研究者としての規範を示し続けられた。素粒子論研究室でのセミナー、理学部生に対する講義・講演、大阪大学での未来トークなどを通して、研究者として人間として学生に希望と勇気を与え続けられた。理学研究科では2年前

より、毎月1回、自然科学のフロンティアを究める南部コロキウムを開催している。1年半後に竣工予定の理学研究科新棟（教育研究交流棟）の会議場は「南部陽一郎ホール」と命名される予定である。

理学研究科としての哀悼の言葉：

70年以上にわたり物理学の世界を切り開き、牽引されてきた南部陽一郎大阪大学特別栄誉教授の訃報に接し、深い悲しみを覚えます。最後まで研究と啓蒙活動に専念された南部先生の意志を引き継ぎ、我々理学研究科は、今後も基礎科学の発展に努力してゆきたいと存じます。

（作成：2015年7月 大阪大学理学研究科）



大阪大学理学研究科で講演する南部陽一郎先生（2014.5.13）



米国コロンビア大学から大阪大学理学研究科に寄贈された「湯川秀樹博士愛用の黒板」に自署する南部陽一郎先生（2014.5.13）